

	類似疾病検査	疫学調査	臨床検査	送付用検査材料
海26 あひる肝炎〔屈〕		①あひるが感染・発病 ②Ⅰ～Ⅲ型。ⅠとⅢ型はピコルナウイルス、Ⅱ型はアストロウイルスが原因 ③Ⅰ型は米国、英国、中国、台湾、朝鮮半島、日本で発生。感染率は100%、死亡率は1週齢以下では95% ④Ⅱ型は英国で発生し、死亡率は3～6週齢で10～25%、6～14日齢で50% ⑤Ⅲ型は米国で発生し、死亡率は30%前後 ⑥どの型も成鳥は発症しない。	①ⅠとⅢ型では、うずくまり、脚の痙攣、頭部の後転。肝臓の腫大と出血 ②Ⅱ型では甚急性死。肝臓の点状出血、腎臓と脾臓の腫大	①肝臓 ②血清 ③ホルマリン固定臓器
海27 性あひる腸炎〔屈〕ウイルス		①あひる、カモ、ガチョウ、コハクチョウが感染 ②北米、欧州、中国、インド、タイに発生 ③死亡率5～100% ④持続感染鳥により汚染された湖沼が感染源	①羞明、食欲不振、元気消失、水様性下痢、鼻汁、運動失調、産卵率低下 ②体腔内血液貯留、内臓の点状出血	①ウイルス分離材料には肝臓など主要臓器 ②血清 ③ホルマリン固定臓器
海28 兎粘液腫〔屈〕	兎線維腫	①うさぎ類が感染発病 ②欧州、北米、オーストラリアに発生 ③蚊、ノミなど節足動物の吸血で伝播。うさぎ間の接触伝播もある。 ④年齢に関係なく発病するが、品種による差がある。 ⑤ウイルス株による病原性の差がある。	①潜伏期は2～8日 ②結膜炎 ③鼻、口、肛門および生殖器周辺の皮膚粘膜にゼラチン様腫瘤形成 ④眼および鼻の充血とカタル性炎症 ⑤強毒株の感染では高死亡率で、感染後8～15日で死亡	①粘膜および皮膚病変部、眼や鼻の分泌液 ②耐過例の血清
海29 ボーダー病	① 70 豚コレラ ② 14 牛ウイルス性下痢・粘膜病 ③ 11 アカバネ病	①欧州、米国、オーストラリア、ニュージーランドで流行 ②胎子感染し免疫寛容となる場合がある。 ③豚コレラウイルス、牛ウイルス性下痢・粘膜病ウイルスと抗原的に交差し、類似疾病検査において重要 ④めん羊、山羊のほか、豚および多くの偶蹄類に感染	①一般には軽度の発熱 ②妊娠羊で流死産、小脳形成不全、内水頭症、体型異常などの異常産	①病原診断：血液等 ②血清診断：血清